愛知教育大学大学院　教育学研究科　平成30年度　修士論文抄録

インドネシアの多言語状況と言語教育
–インドネシア人社員と家族の調査を通して–

日本語教育領域　　井藤　いづみ

1　背景と目的

インドネシアは、人口約２億６千万人、 日本の面積の約５倍で 、世界第４位の大国である。赤道にまたがる約1万4000の世界最多の島嶼を抱え、他の国や人々と交流、交易してきた。また、様々な種族や文化、500とも言われる言語が存在し、国民の９割がイスラム教徒の国である。

５世紀頃の仏教文化期には、今日のインドネシアの国語の原型となるマレー語が、スマトラ島で使われていた。その後、7世紀から14世紀にかけて、マレー半島、ジャワ島、カリマンタン島へと広がっていった。当時は種族毎の言語が違い、異種族間では、マレー語以外はほとんど通じない状況だった。

マレー語は、発音、文法ともに柔軟で、各種族語や外国語から語彙を借用していた。15世紀末には、香料貿易のポルトガルと交流があったので、現在のインドネシア語にも、ポルトガル語からの借用語が、327（小池1998：48)残っている[1]。また、マレー語は、社会階級や身分によって表現方法を変えるジャワ語と違って、自由な言語であったことも流通要因の一つであった。

17世紀からの約340年間は、オランダの植民地となり、オランダ語が公用語であったが、一般の人々は地域の種族語とマレー語とをリンガフランカとして使っていた。（Sneddon 2003:94)

その後、政府は、1945年の独立後、名称をインドネシア語に替え、国語として、強力に普及を図った。

豊田市には、このインドネシア語を話すトヨタ自動車会社のインドネシア人社員が、家族とともに住んでいる[2]。トヨタ自動車は、インドネシアにある日系企業約1800社のうちの１社である。

彼らの多くは、家族と、国語であるインドネシア語でコミュニケーションをとり、英語に堪能で、他国の人と円滑に会話している。子供たちの英語力も高く、英語を流暢に話す子も多い。

この状況は、森山の言う「多くの人が、家庭など私的な空間では、第一言語である民族集団の言語を使用し、公的な空間では、小学校で学ぶ国語を使用するバイリンガルである」(2012：407）に合致しないのである。

身近なインドネシア人の言語状況からすると、インドネシアは、森山の言うような「多言語」と言えるのだろうか。また、近年の若者世代は、60才以上の人々が話しているよう

---

[1] 靴:sapato（ポ）spatu(イ), バター:Manteiga（ポ）Mentega（イ）, タバコ:tembakau(イ）tabaco(ポ）等がある。

[2] 豊田市大林永覚地区。

な地方語が使えず、インドネシア語を使っているのだろうか。さらに、 グローバルな政治・経済状況の中で、 インドネシアの知識階級では、必要に応じて、どのように英語を使用しているのだろうか。

そこで、インドネシア語を国語とした統一前後の状況や、インドネシア語と地方語、外国語の使用状況、それが社会に与えている影響について、日系企業会社員と家族に焦点をあてて検証する。また、言語教育の問題点や改善策について明らかにしていく。

2　調査方法

本論文では、調査の対象者を次のように規定する。

調査対象者・・・豊田市、ジャカルタ市のトヨタ自動車会社の社員と家族
比較調査対象者・・・ジャカルタ、スラバヤの教師、日本在住のインドネシア人主婦、看護師・介護士候補者研修生

本論文での調査対象者は、豊田市の大林地区に住むインドネシア人社員とその家族である。かれらの言語背景を調べるために、出身地であるジャカルタやスラバヤへ赴き、現地で働く社員・家族や教師への調査を行った。

さらに、言語状況の比較のために、英語に堪能ではない人々への調査を行った。調査対象者は、インドネシア人主婦のT氏とM氏、また、EPA[3]協定で受け入れた21～29才の看護師・介護福祉士候補者研修生である。

調査方法は、インタビューやアンケートで、調査内容は、出身地や母語、「話しやすい言語」についてである。

また、英語についての学習経歴や現在の英語能力についても調査し、出身地や職業、世代での言語状況の違いを明確にしていく。それらの調査結果をもとに、言語教育の実際として、ジャカルタとスラバヤで、就学前から中等教育（高等学校）までの実態を、園や各校を訪問して調査した。

3　調査結果

3.1　豊田市とジャカルタ市の社員と家族への調査

豊田市とジャカルタ市の社員と家族、合計41名の言語状況のアンケートを行った。出身地は、表3-1のように、会社の所在地であるジャワ島（ジャカルタ）、ジャカルタ近郊が多い。

[3] 経済連携協定（英: Economic Partnership Agreement) EPA貿易の自由化に加え、投資や競争政策におけるルール作り、様々な分野での協力の要素等を含む、幅広い経済関係の強化を目的とする協定である。

表３-1 出身地：トヨタ自動車社員とその家族

州	西スマトラ	南スマトラ	リアウ	ボルネオ	中部スラウェシ	バンテン	バリ	マレーシア
市町	パダン	ラハット	ー	ケタパン	ポソ	セラン	クニンガン	スバン
人	1	1	3	1	1	1	1	1

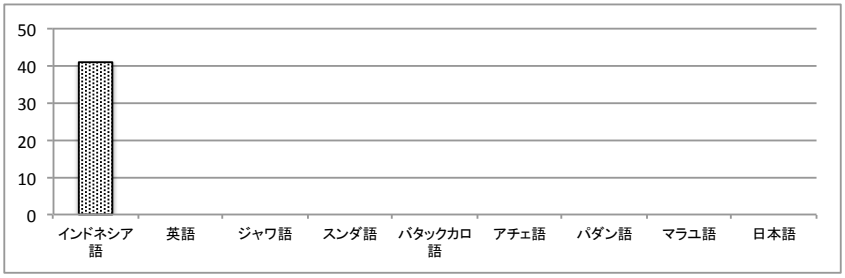
州	特別	西ジャワ			中部ジャワ		東ジャワ			
市町	ジャカルタ	ブカシ	バンドン	ボゴール	スマラン	ソロ	デポ	スラバヤ	クデイリ	マラン
人	13	3	4	1	1	3	1	2	1	1

次に、41名の「話しやすい言語」についての調査結果を示す。

図３-1　41名の話しやすい言

第１言語

インドネシア語　41



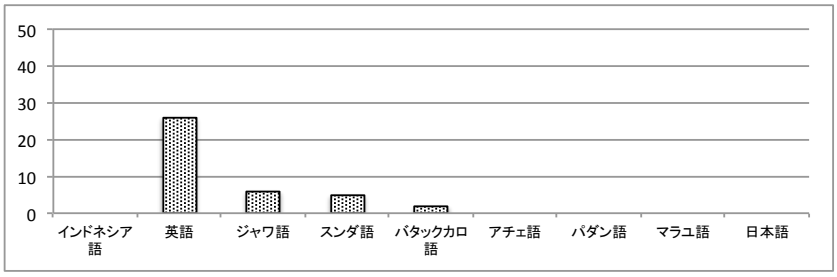
第２言語

英語　26

ジャワ語　6

スンダ語　5

バタックカロ語 2



第３言語

英語　10

ジャワ語　6

スンダ語　6

アチェ語 1　パダン語1

マラユ語 1　日本語1

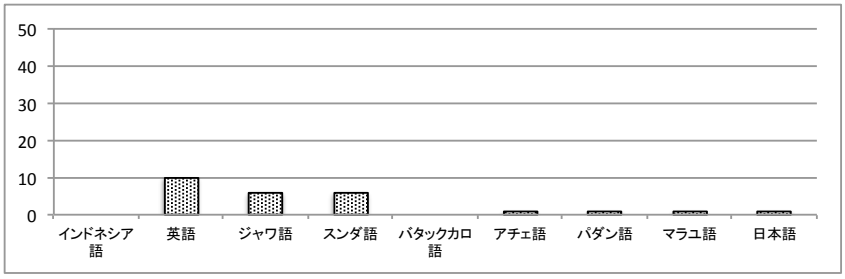


図3-1をみると、「話しやすい言語」の一番は、全員インドネシア語で、２番目は英語、３番目はジャワ語[4]とスンダ語である。

英語を挙げる人が22名と半数いる理由は、会社がTOEIC等での英語力チエックを推奨

[4] ジャワ語は、インドネシア・ジャワ島の中央部から東で話されている言語で、本拠地はジャワ島東部及び中部である。全人口のうち、約1.37億人がジャワ島に住み、うち約7.5千万人がジャワ語を使用している。

し、実際に仕事上でも使う機会が多いからである。そのため、「話しやすい」程度の英語力をもつ人が多いと考えられる。また、ジャワ島出身者が多いことから、 その地方語になるジャワ語やスンダ語を話しやすいと思う人が、１～２割程度いる。

トヨタ社員(豊田とジャカルタ)・家族の話しやすい言語数・・・2.6言語

内　訳

豊田市の社員・家族の話しやすい言語数（女性　23名　複数回答）

年代別　20代・・・８名　30代・・・14名　50代・・・１名

平均言語数…2.4言語

ジャカルタ市の社員・家族の話しやすい言語数（18名　複数回答）

年代別　２０代・・・男１　女１　３０代・・・男２　女４　４０代・・・男５　女５

平均言語数…2.8言語

豊田市とジャカルタ市の社員・家族を合わせた41名の「話しやすい言語」の結果をみると、インドネシア語と英語が「話しやすい」と答えた人が多い。結果、彼らはインドネシア語と英語の多言語話者である。この結果は社員と家族だけであろうか。

そこで、他の職種のインドネシア人について調査した。

3.2　インドネシア人の教師への調査結果

社員以外の職種のインドネシア人として、ジャカルタとスラバヤの教師の言語状況についての調査を行った。

3.2.1　ジャカルタの教師のアンケート調査結果

出身地（ジャカルタの教師）１０名　　表３-2　10名の出身地

州	特別	特別	スマトラ	ボルネオ
市町	ジャカルタ	ジョグジャカルタ	ー	パリクパパン
人	5	1	3	1

表３-2　10名の話しやすい言語数

1言語	2言語	3言語	4言語
0	2	5	3

話し やすい言語数　　平均・・・3.1言語

表３-3　10名の話しやすい地方語（複数回答）

インドネシア	英語	ジャワ	スンダ	パダン	ミナングース	バタック	アラビア
10	7	4	2	2	2	1	1

表3-3からすると、ジャカルタの教師が話しやすい言語は、インドネシア語を除くと、英語である。英語担当教師に限らず、英語を話しやすいと感じている教師は多い。地方語では、ジャワ語、パダン語など、複数の言語があるが、いずれも少数である。

ジャカルタは、世界有数の大都市であり、政治・経済の中心地でもある。独立後の国の統一にあたっても、先端を切って行ってきたので、インドネシア語の普及も速かったと考える。また、仕事など、様々な理由で地域からジャカルタへ移住してきた人々も少なくない。異種族間での共通語として、リンガフランカ的にインドネシア語を活用したことも、普及の理由である。

3.2.2　スラバヤの教師のアンケート調査結果

出身地（スラバヤの教師）

20才代 ２名、30才代６名、40才代５名　50才代１名　　計14名

表３-4　14名の出身地

州	特別	東ジャワ		中部ジャワ	バリ	スマトラ		テイムール
市町	ジャカルタ	パスルアン	スラバヤ	スマラン	マデウ	ゴンジュアック	ソバンジャバン	―
人	3	1	5	1	1	1	1	1
現在	0	0	14	0	0	0	0	0

話しやすい言語　平均・・・2.6言語

表３-5　14名の話しやすい言語数

１言語	２言語	３言語	４言語
0	3	10	1

表３-6　14名の話しやすい言語（複数回答）

インドネシア	英語	ジャワ	マドゥラ
14	13	11	2

インドネシア語以外の話しやすい言語は、表3-6のように英語とジャワ語である。スラバヤは東ジャワ州にあり、ジャワ語やマドゥラ語が使われている地域である。そのため、表3-5、表3-6のような結果になった。また、14名の教師は、みな公立（州立）か私立の大学を卒業している。その間、英語の授業以外で、自主的に英語を学んできた教師も多い。

また、地域的な言語として、ジャワ語を「話しやすい言語」と考える人が多いことがわかった。

豊田とジャカルタの社員・家族、ジャカルタとスラバヤの教師への調査の結果 、インドネシア語と英語、また、地方語でも、ジャワ語やスンダ語を「話しやすい言語」と考える人が多いことがわかった。このような結果は、知識階級の人のみであろうか。 中等教育就学後の経歴による英語能力の差異について、 他の職種のインドネシア人の言語状況について、調査した。

3.2.3　英語が堪能ではないT氏の調査結果

英語が堪能ではないT氏（女性　主婦　26才 ）の調査結果について述べる。

T氏は、スマランから車で２時間の町スマダンという田舎町の出身で、インドネシア語と地方語の二言語話者である。英語については、小学校から授業で学んでいるが、現在、使う機会もなく、ほとんど話せない。T氏は、高校卒業後、就職し、結婚して来日したので、中等教育までの就学である。また、英語を必要とする職種に就かなかったので、社会人になっても、英語を学習する必要性もなかった。このような点で、英語能力に違いがあると考えれる。 T氏の略歴は次のようである。

T氏の略歴

	T氏
年齢　性別 出身　職業 使用言語	1990年　西ジャワ州スマダン（都市スマランから車で２時間の田舎）生まれ。父母、姉２人。兄１人。　家族や近隣の人とは、スンダ語で話す。 インドネシア語、スンダ語
公立小学校 6才～	SD PAGARSIH BANDUNG ３年生から英語の授業が、1時間/週あった。 授業中はインドネシア語で話し、友達とはスンダ語でおしゃべりした。スンダ語を使っても注意はされず、先生が使うこともあった。
公立中学校 12才～	SMP SWASTA PAHLAWAN TOHA 英語とインドネシア語の授業が、3時間/週あった。 友達とはスンダ語で会話した。
公立高校15才～	SMA PROFITA 英語とインドネシア語の授業が、3時間/週あった。
就職　18才～	靴会社で秘書の仕事をする。インドネシア語を使っていた。
現在　27才～	結婚して５月に来日。

3.2.4　英語が堪能ではない看護師・介護福祉士候補者研修生の調査結果

同じように、他の職種のインドネシア人の言語状況として、看護師・介護福祉士候補者研修生への調査を行った。インドネシア各地から看護師や介護士の候補者として研修後、日本各地で働く予定のインドネシア人青年男女、26名である。

彼らは、来日前、日本語能力検定N3程度までの学習をしてきている。日本での研修終了後、インドネシアで決められた日本各地の介護施設や病院に派遣される予定である。

１年～４年の高等教育（専門学校や大学 S1 D1～D3）を受け、来日している。

研修生の年令と性別　26名　　表３-７

年	21才	22	23	24	25	26	27	28	29
男	0	0	2	1	0	0	1	0	0
女	1	1	6	3	2	1	0	0	1
計	1	1	9	6	5	1	1	1	1

S1：４年制大学　　表３-８

	S1(4年生大学卒業資格)　9名							
出身州	バリ州	スラウェシ州	スマトラ州	ジャワ州 スマラン	ジャワ州 ジャカルタ	カリマンタン州	西ヌサ・トゥンガラ　ビマ州	合計
男	0	0	0	1	0	0	0	1
女	2	1	2	0	1	1	1	8

Ｄ３：専門学校３年間　　表３-９

	D3（職業教育３年資格）　17名									
出身州	ジャワ州 テンガ	ジャワ州 バンドン	ジャワ州 スマラン	ジャワ州 ソロ	スマトラ州 ブングル	スマトラ州 パレンバン	バリ州	スラウェシ州	カリマンタン州	合計
男	1	1	1	1	1	1	0	0	0	6
女	0	1	2	1	1	0	1	2	3	11

研修生26名の使用言語　（複数回答）　表３-10

	インドネシア語	ジャワ語	スンダ語	バリ語	マラユ語	ミナン語	ブンクル語	バンジャール語	スンバワ語	ビマ語	バタック語
男	5	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
女	20	6	0	4	1	1	1	1	1	1	1
合計	25	9	1	4	1	1	1	1	1	0	0

平均言語数　男・・・１.３言語　　女・・・１.85言語　　平均・・・1.57言語

調査対象者26名の出身地は、インドネシア全国に及ぶ。大都市出身者もいるが、ほとんどは、田や畑が広がる地方の町や村である。中には、市の中心までバスで12時間かかる村の出身者もいた。

４　まとめ

調査結果では、社員・家族の平均言語数は2.6言語で、「インドネシア語と英語」の多言語話者という結果になった。

ジャカルタとスラバヤの教師の調査結果では、両市の教師の平均言語数2.6言語、話しやすい言語は、全員がインドネシア語であった。英語はインドネシア語の８割、母語であるジャワ語は、インドネシア語の約５割の人が話しやすいと答えた。

しかし、20才代の看護・介護福祉士候補者研修生の平均言語数は、1.57言語であった。話しやすい言語は、全員がインドネシア語と地方語で、英語は話せないという結果だった。地方語としては、母語であるジャワ語、バリ語、スンダ語等、出身地域の言語で、10種であった。

これらのことから考えると、英語を話せるのは、高等教育の有無とその間の自主的な英語学習の結果であることがわかった。社員と家族のほとんどは、高等教育まで就学し、小学校時期から家庭教師を雇うなどして、自主的に英語を学んでいるのである。

この調査結果から、社員・家族と看護師・介護福祉士候補者研修生との言語状況の違いは、次の二点であることがわかった。

1　出身地の違い

2 高等教育の就学状況と職業の違い

4.1　出身地の違い

インドネシアでは、独立以後、国語であるインドネシア語の普及が図られた。その結果、学校や職場ではインドネシア語を使い、地方語は必要なときに使うという状況になった。

トヨタ社員・家族の8割は、ジャワ島の都市出身か、仕事のため、長年ジャカルタ市近辺で生活している。ジャワ島では、ジャワ語が使われていたが、独立後の政府の方針から、公的にはインドネシア語を使用するようになっている。特に、ジャカルタ首都特別州は、東南アジア有数の都市と言われるほど人口も多く、政治・経済の中心地で、他国との交流も多い。そのため、インドネシア語の使用頻度が高く、公私にわたって使う機会が多く、普及が速かったのである。

一方、看護師・介護福祉士候補者研修生や在日のインドネシア人主婦の出身地は、都市からかなり離れた地域が多く、インドネシア語が普及していない。外部からの流入がなければ、地方語のみで生活でき、60才以上の年配者はインドネシア語を話せない地域もあ

る。 地方出身者の中には、インドネシア語の授業ではない時間は、教師も常に地方語で話していたと語っていた。 彼らの話しやすい言語は、ミナン語やブングル語、バンジャール語等で、研修中も同郷者とは、地方語で話している。

これらの結果から、ジャカルタやスラバヤ等の都市では、公私ともにインドネシア語を使用し、地方では、公的にはインドネシア語だが、生活上は地方語を使っているという言語状況がわかった。

4.2　高等教育の就学状況の違い

調査対象者の中等教育の時期、 2004年の教育施策をもとに英語教育が推進されていた。しかし、堪能な英語話者になるためには、高等教育までの就学や自主的な英語学習が必要で 、身近に塾や語学学校等の言語教育環境がなければならない。社員や教師のような知的階級の人々は、公立・私立を問わず、より良いと思える学校を選び、高等教育まで就学している。さらに、自主的に英語の学習をしたことで、英語に堪能になっているのである。

近年は、経済のグローバル化から、社員のように他国の企業とかかわる職業を選ぶ人も多い。そこで、英語を学ぼうとする意識がさらに高まり、自主的な英語学習者も増えている。

3.4.1と3.4.2のことから、研究結果について総括する。

・インドネシア語は、インドネシア全土で広く使われているが、高齢者の中には、地方語のみで生活

し、インドネシア語を使えない人がいる。

・インドネシアの若い人々で地方在住者は、地方語が母語であり、第一言語である。そのため、地方では、地方語を使う若者が多い。

・都市では、英語を学ぶ施設や学校が多々あり、言語学習環境に恵まれている。本論文の調査によると、都市部の４年生大学(S1)就学者や私的に英語を学んでいる人は、英語に堪能である。

5　今後の課題

次にあげる二点が、今後の課題である。

1．インドネシアのジャワ島以外の地域に、調査を広げていくこと。

2．インドネシアでの言語教育の成果を、日本での外国語教育に応用していくこと。

5.1　インドネシアのジャワ島以外の地域に、調査を広げていくことについて

インドネシアの多言語状況の核となるのは、国語のインドネシア語である。国全体でみると、インドネシア語を日常的に使用する人口の割合は、2010年に19.9％と少数である(CENSUS 2010)。各地域で、母語でもある地方語の話者が多いのである。この点からみる

と、地方語であるジャワ語等よりインドネシア語を中心に使っているジャワ島のジャカルタ等の都市の言語状況は特別であろう。

本研究の比較調査対象者の中には、20才代の地方在住者で、日常的に地方語を使う人が多かった。また、家庭内では、出身地域の地方語ではなく、親や祖父母の出身地の地方語を使っている人もいる。このように、ジャワ島以外の州では、様々な理由で地方語を使う人が、多数いるのである。

このことから、ジャワ島以外の州でも、同様な調査を行う必要があると考える。

5.2　インドネシアの言語教育の成果を、日本での外国語教育に応用していくことについて

インドネシアと日本の英語力は、両国とも高くはない[5]。しかし、インドネシアでは、国として授業時間の規定はあるが、教育内容は各学校に任せている。その結果、学校独自でカリキュラムを作ることが可能で、私立小学校４年生で、４時間/週の英語の授業を行ったり、理科や算数の授業で媒介語を英語としたりし、英語力を高める教育を積極的に行っている。

また、学区制のある日本と違って、多くの初等・中等教育の公立・私立の学校の中から、家庭の経済状況や、将来の職種を見据えて、選べる自由がある。

政治・経済のグローバル化の中で、日本にも他国の企業や人々が流入し、今後、さらに増える見込みである。様々な国の人々と出会う機会が増え、単言語使用の地域である日本が、多言語化していく可能性もある。他国の人々と協調しながら、生活や仕事をするためには、今後、日本の英語力も、さらに高める必要があると考える。

これらの点からすると、インドネシアのように学校の自由選択制を取り入れたり、インドネシアの私立小学校で行っているようなコミュニケーション能力を高める英語教育を行ったりして、言語学習のより良い環境づくりが必須であろう。そのためには、今まで以上の教育予算が必要になる。国の政治・経済のグローバル化の推進のためにも、教育改善にむけた国としての取り組みが必要であると考える。

[5] EF英語能力指数は、2017年には、80か国中インドネシア37位、日本49位である。

参考文献（主要な論文のみ記載）

・小池誠 (1998)『インドネシア　島々に織り込まれた文化』三修社

・マリアディナタ ジュハナ スプリアディ: 白坂蕃訳 (1984).「インドネシアの教育制度と社会科教育」『新地理』日本地理教育学会 32(1), pp.26-28.

・森山幹弘 (2009)「国語政策における地方語の位相」森山幹弘・塩原朝子編著『多言語社会インドネシア』めこん

・森山幹弘 (2012)『インドネシアにおける多言語状況と言語政策』砂野幸稔編著『多言語主義再考ー多言語状況の比較研究』三元社

・Coleman , Hywel (2011). *Allocating resources for English: The case of Indonesia's English medium International Standard Schools, Dream and Realities: Developing Countries and the English Language Paper 5,* British council , London.

・Miyake, Yoshimi(2002). Language Policy of Indonesia.『国際基督教大学学報.I-A,教育研究』Vol.44, p.268.

・Sneddon, James (2003). *THE INDONESIAN LANGUAGE. ITS HISTORY AND ROLE IN MODERN SOCIETY.* UNSW Press. Sydney.